

## 5 大和田・萱田町のムラの講の石造物

藤 由美

### はじめに

平成 29 年度の総合調査のテーマである大和田宿の調査の一環として、佐倉道に面し入り組んで隣り合っていた大和田村と萱田町の旧二村を対象に、江戸時代から現代にいたる伝統的なムラの講に関する石造物を調査した。調査対象は『八千代市の歴史 資料編』の「石造文化財」(注 1 以下『市史』と略記する) 一覧表にある大和田の 83 基と萱田町の 84 基の計 167 基のうち、ムラの講により造立された石造物 75 基に、平成元年以後建立の 4 基を合わせた 79 基である。

内訳は庚申塔 13 基、女人講に関連する石造物 29 基、出羽三山塔 28 基、馬頭観音塔 6 基で、その像容や形態、法量のほか、『市史』で「人名多数」として省略されている銘文も調査した。

調査は、筆者のほか、鈴木千代・畠山隆・菅野貞男・藤村誠枝・宮井雄二・牧野光男・村田一男・中島和子・松柴慎吾の会員が参加し、2017 年 3 月 22 日より 8 月 13 日まで 13 回行った。

調査地点は、大和田は真言宗の円光院と隣の時平神社境内、萱田町は真言宗の薬師寺と日蓮宗の長妙寺境内、字中台の庚申塚 5 か所である。

### 1. 庚申塔

庚申塔は、ムラの講による石造物として江戸時代前期から造立された代表的な石造物である。大和田では円光院境内に元禄 7 年 (1694) の造立銘の青面金剛像塔 (I-O-1) をはじめに大正 4 年 (1915) 銘塔 (I-O-4) までの 4 基、萱田町では字中台の庚申塚に享保 6 年 (1721) の造立銘の青面金剛像塔 (I-K-1) から昭和 41 年 (1966) 文字塔 (I-K-9) まで 9 基ある。(表 1)

#### (1) 大和田の庚申塔

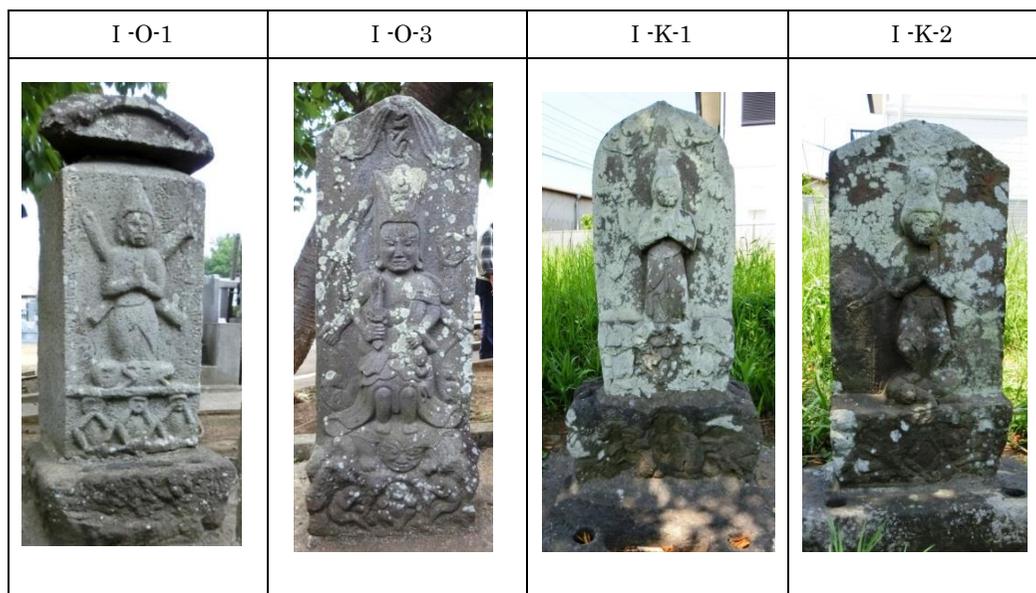
大和田の庚申塔群は、円光院の墓地南側入口右側に壇を設けて、馬頭観音塔群と一緒に並べて設置されているが、近年の街路や墓地整備により今の形態になったと思われる。

このうち笠付角柱型の元禄 7 年銘塔は、六臂合掌型の青面金剛供養塔で、左右側面に多数の人名が彫られているが、風化が著しく拓本を採っても判読できなかった。この塔は、八千代市内では 12 番目に、大和田では最古の石造物であり、この頃のムラ組織の確立と生活の安定を受けての造立と推定される。

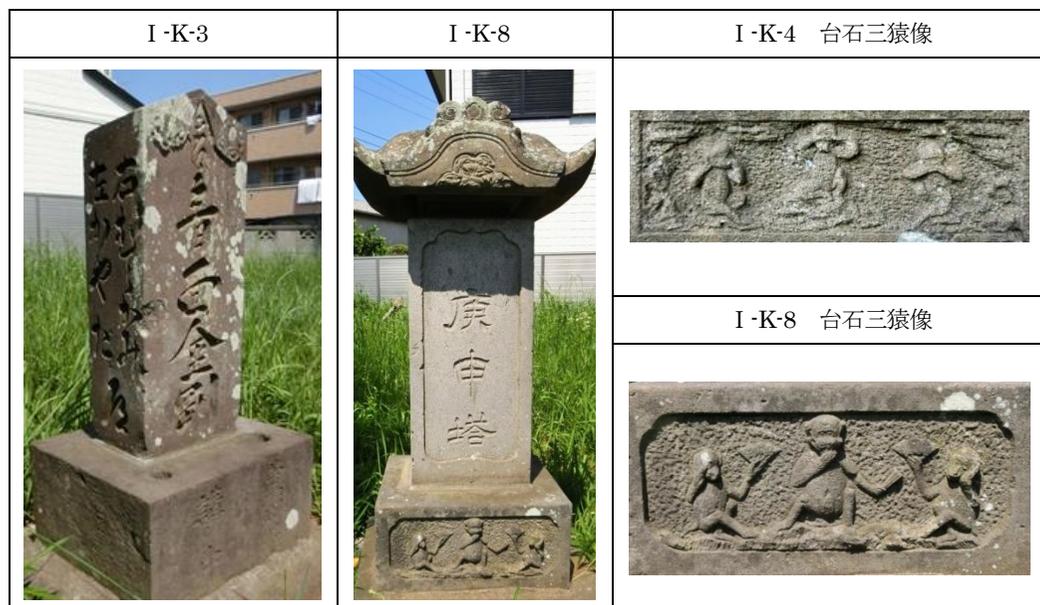
邪鬼を踏む剣持型六臂の力強い青面金剛像を刻む文政 9 年 (1820) 銘塔 (I-O-3) は、文字塔が主流となる江戸後期においては、像容をもつ刻像塔として極めてまれな庚申塔である。

表1 大和田・萱田町の庚申塔一覧表

No.	市史 No.	所在地	造立年月日	西暦	像容	形状	銘文（造立年月日略）
I-O-1	一-12	大和田 円光院	元禄 7・ 10・吉	1694	青面金剛	笠付 角柱	奉造立青面金剛 為二世安 楽也 敬白 (人名多数・判読不可)
I-O-2	一-184	大和田 円光院	文政元・ 12・吉	1818	三猿 日月	駒型	庚申 講中
I-O-3	一-199	大和田 円光院	文政 9・ 11・吉	1826	青面金剛 邪鬼 三猿	駒型	(梵字 ウン)
I-O-4	一-391	大和田 円光院	大正 4・ 10・吉	1915	日月	駒型	庚申塔
I-K-1	一-29	萱田町 字中台	享保 6・ 10・15	1721	青面金剛 三猿	駒型	奉造立庚申講中 施主/七郎○エ門/(藤兵衛?)/ (藤左エ門)/平○○/○兵衛 ○○エ門/市良右エ門
I-K-2	一-70	萱田町 字中台	寛延 2・ 11・吉	1749	青面金剛 二鶏 三猿	駒型	萱田町 権兵衛/又四郎/清兵衛 山三郎/○兵衛/権三郎/七兵衛/ 庄五郎/次兵衛/市兵衛/文次郎
I-K-3	一-180	萱田町 字中台	文化 15・ 4・吉	1818	三猿 日月	駒型	青面金剛 萱田早講中 右むらかみ/左かやた/道
I-K-4	一-210	萱田町 字中台	文政 13・ 4・吉	1830	三猿 日月	駒型	庚申塔 (梵字 ウン) 萱田町 杵山/藤代/中○/○○/ 同/同/同/中○/同/同/○/○
I-K-5	一-241	萱田町 字中台	天保 13・ 11・吉	1842	日月	駒型	庚申塔 萱田町 講中



No.	市史 No.	所在地	造立 年月日	西曆	像容	形状	銘文（造立年月日略）
I-K-6	一- 330	萱田町 字中台	明治11・9・ 吉	1878	日月	自然 石	庚申塔 杵山安治/中臺武右エ門/同 七兵エ/同仁助/青木重兵エ/ 藤代藤五郎/加藤藤助/中臺 庄五郎/藤代市右エ門/岩井 四郎左エ門/藤代善太郎/中 臺庄兵エ/同藤兵エ/同半三 郎/青木重右エ門/岩井喜六
I-K-7	一- 364	萱田町 字中台	明治 30・ 11・吉	1897		駒型	青面金剛王 藤代勝五郎/中臺松五郎/藤 代善太郎/中臺円治郎/中臺 啓輔/中臺藤兵エ/中臺七兵 エ/世話人 中臺庄藏/杉山 安兵エ/榎屋重兵エ/岩井四 郎左エ門
I-K-8	一- 393	萱田町 字中台	大正 5・11	1916	踊る三猿	笠付 角柱	庚申塔 明治四十四年二月二十五日 記名之人員ニテ国有林ヲ拼 下ケ庚申塔敷地ト為ス 榎屋重兵衛/中臺藤兵衛/杉 山安兵衛/藤代藤五郎/中臺 武右衛門/岩井四郎左衛門/ 中臺庄兵衛/藤代市良右衛門 /中臺松五郎/中臺七兵衛
I-K-9	一- 417	萱田町 字中台	昭和41・9・ 吉	1966		自然 石	庚申塔 杉山安兵衛/青木くれ/中臺 庄兵衛/中臺藤兵衛/岩井四 郎左エ門/中臺武右エ門/藤 代市郎右エ門/中臺源一/藤 代ちよ



## (2) 萱田町の庚申塔

萱田町の庚申塔群は、八千代市市民会館前から成田街道への旧道三叉路の庚申塚に9基並べて設置されてある。この庚申塚の敷地確保に関しては、大正5年(1916)銘塔(I-K-8)に「明治四十四年二月二十五日記名之人員ニテ国有林ヲ併下ケ庚申塔敷地ト為ス」とその由来が記されてある。台石に扇を持って踊る三猿像を浮彫りするこの庚申塔は、近代では珍しい立派な笠付角柱型文字塔で、庚申塚整備を記念して復古調の石塔を造立したのであろう。

この庚申塔群での最古の享保6年銘塔と寛延2年(1749)銘塔(I-K-2)は、合掌型六臂の青面金剛像を刻む。なお、享保6年塔には本体の青面金剛像の下に三猿が彫られているが、その台座にも三猿像があり、整備の際に他の庚申塔の台座が誤って組み合わせられたようである。

その他の庚申塔は文字塔であるが、文化15年(1818)銘塔(I-K-3)には、しっかりした字体で「青面金剛 萱田甲講中」のほか、「右 むらかみ/左 かやた/道」の道標銘が刻まれている。(注2)

近代～現代の4基(I-K-6～9)には、造立にかかわった人名が丁寧に記されており、代々萱田町の庚申講を伝えてきた家名(いえな)と共に、庚申講が昭和41年まで継続していたことがわかる。

## 2. 女人講に関連する石造物

北総ではムラ組織が安定する江戸前期から、庚申塔と並んで十九夜塔などの女人講に結縁した女性たちが造立した石塔が多く造立されている。

女人講の石塔は、真言宗寺院である萱田町薬師寺境内の宝永2年(1705)銘と推定される石塔(II-K-1)が初出で、大和田円光院の宝永5年(1708)銘の石塔が(II-O-1)が続く。共に如意輪観音像を刻み、女性の実名が列記される十九夜塔である。江戸前期の大和田・萱田町の石造物は、長妙寺の貞享元年(1684)の筆子塚(本誌P103参照)と前項の元禄7年銘庚申塔のほかは、この十九夜塔2基のみである。

真言宗系の如意輪観音像を刻む十九夜塔は、江戸後期から徐々に子安観音像を刻む子安塔に変わり、現代の昭和期まで続くが、注目すべきは、日蓮宗の長妙寺檀家の女性たちも宗旨に合わせた「子安鬼子母神」像塔を造立していることである。一方、大和田では、昭和30年代に子安講から秩父観音霊場を廻る秩父講に変わり、秩父観音参拝記念碑を現代まで建て続けている。

今回は、上記の十九夜塔・子安観音像塔・子安鬼子母神像塔・秩父観音参拝記念碑のほか、女人講が奉納した大和田時平神社の子安神石祠と疱瘡神石祠、萱田町の手洗石2基も調査し、女人講の実態や人名の記載法の変遷に迫ってみた。(表2-1・2-2)





No.	種類	市史 No.	所在地	造立年月日	西暦	像容	形状	銘文
II-0-15	巡拝 供養塔	四-2-36	大和田 円光院	(昭和 39・ 4・13 参拝)	1961	なし	自然石	秩父観音参拜記念 昭和二十九年 四月十三日参拝
世話人 大澤輝志子 全 齊藤しづ 全 小島さよ 知留間しん 小澤ミノル 齋藤千代 大澤きよ 大塚八重子 大澤まつ 新谷とく 花澤ふみ子 笠川ふじ 川城いち 齋藤まさ 澤田きみ 太田しづ 青木しん 澤田とみ 齋藤さき 御山よし 花澤よね 内田さだ 中台さい								

No.	種類	市史 No.	所在地	造立年月日	西暦	像容	形状	銘文
II-0-16	巡拝 供養塔	四-2-37	大和田 円光院	(昭和 44・ 4・15 参拝)	1969	なし	自然石	秩父観音参拜記念 昭和四十四年 四月十五日
青木さわ 新谷八枝子 花島ちえ 大塚とり 杉山綾子 大澤静子 花島ゆき子 御山文字子 大澤利子 三浦敏子 小澤泰江 齊藤和子 小澤とみ 花澤よし子 榎山久江 花澤さき 齊藤さき 新谷元子 新谷京子 川城きよ 石井せつ 高橋美江子								

No.	種類	市史 No.	所在地	造立年月日	西暦	像容	形状	銘文
II-0-17	巡拝 供養塔	四-2-42	大和田 円光院	(昭和 54・ 5・15 参拝)	1979	なし	自然石	秩父観音参拜記念 昭和五十四年五月十五日参拝
大澤玲伊子 大澤つや子 大澤弘子 大澤好子 大澤八千代 大澤よし子 大澤園枝 大澤信子 大塚俊江 奥田和江 榎山しず子 川城幸子 川城奈子 河島元子 澤田衣江 齊藤長子 新谷孝子 新谷洋子 芹川和江 高橋邦子 田中庄子 知留間泰子 中臺靖子 花澤良子 花澤和子 花澤正栄 花澤廣子 花嶋千代 牧野夏子 御山恵子 御山静代 山本博子 新谷孝子 新谷洋子 芹川和江 高橋邦子 田中庄子 知留間泰子 中臺靖子 花澤良子 花澤和子 花澤正栄 花澤廣子 花嶋千代 牧野夏子 御山恵子 御山静代 山本博子								
施工 八千代台 片山石材店								

No.	種類	市史 No.	所在地	造立年月日	西暦	像容	形状	銘文
II-0-18	巡拝 供養塔	四-2-48	大和田 円光院	(昭和 63・ 5・22 参拝)	1988	なし	自然石	昭和六十三年五月 二十二日・二十三日・ 二十四日参拝 秩父観音参拜記念
大和田秩父講参拝者 石井峯子 石井洋子 大澤富美子 小澤由起子 齊藤富美子 齊藤美恵子 雑賀氏子 新谷礼子 鈴木ミシ子 花澤みゑ 松本三枝 御山智子 御山はつゑ 大澤さき江								







No.	種類	市史No.	所在地	造立年月日	西暦	像容	形状	
II-K-10	子安塔	二-4-132	萱田町長妙寺	昭和39・4・吉	1964	鬼子母神	光背型	
台石背面銘文			正面銘文					
青木やす子 島田芳江 川城春江 杉山うめ 河野きよ さぎぬま 六代 広瀬刻			子安鬼子母神 (子安像)					
台石左面銘文			台石正面銘文		台石右面銘文			
青木ふじ 兼坂ちえ 島田美津 河野なか 河野とく 河野のぶ 川城いち 青木とめ 川城良子 青木さく 青木きみ江			子安講中		世話人 中村美知恵 川城ろく 大塚きぬ 河野よし 岩佐いち 川城つき 花島つる 川城とよ 萩原とく 青木よし			
河野千代 大塚とし 河野つき 島田清子 山岡てる 川城きよ 松戸さき 河野照代 伊原清子 青木千代子 青木俊子					鈴木いつ 青木そよ 青木たけ 川城さく 河野つや 大場のぶ 河野えさ 鈴木きん 河野さく 河野はる 青木うめ 河野てる			

### (1) 大和田の女人講石造物

円光院の女人講石塔群は、以前は本堂の左側前に、雨除けの覆い屋の下に並んでいたが、墓地整備で一時撤去された後、今年（2017）の春に本堂右横の墓苑に新たに12基が整然と建てなおされている。

右端の宝永5年銘塔は、端正な如意輪像の台座部分に「おかん・おまん」などの28人の女性の実名が刻まれている。各人が仏との結縁を重視して一人ひとり交名を刻む行為は江戸前期に多く、中期（享保～）以降は、「同行〇〇人」「女人講中」などに省略（II-O-2～3）され、女性名列記は消える。さらに江戸後期からは、世話人として2～3名の男性名の家名が記される（II-O-6）ようになるが、この傾向は、筆者の北総での調査でも同様であった。

子安塔に切り替わるのは、幕末の嘉永元年（1848）塔（II-O-7）からであるが、子安像塔に先行して、円光院に隣接する時平神社には、安永3年銘の「子安神」石祠（II-O-4）が「女人講」により奉納されている。さらに同日に「疱瘡神」銘石祠（II-O-5）も女人講によって一緒に奉納され、疱瘡除けと子供の健やかな成長を神に祈願する信仰が一体であったことを物語っている。

江戸中期に、来世での女人成仏を念じる仏教的な十九夜塔と、現世での安産や子の育成を子安神に祈る石祠が並行して存在するのは、筆者の調査では、北総でも八千代市域に特徴的な現象である。（注3）

江戸後期も十九夜塔の造立がみられるが、幕末の嘉永元年から昭和4年（1929）までの6基は、子安観音像を浮彫りした子安塔である。大正8年（1919）銘塔（II-O-11）

は、台座に「安産講」の銘が刻まれ、この時期に大和田周辺で流行した像容の子安像が浮き彫りされている。また、昭和4年銘塔（Ⅱ・O-12）の子安像像容は、文久元年（1861）銘塔（Ⅱ・O-8）の子安像をモデルにした華麗な像容である。

十九夜塔と子安像塔とは別に、円光院本堂の前に、平石の約 1.8m位の石碑が整然と並べて建立されている。そのうち昭和 32 年（1957）に建立された子安講の石碑（Ⅱ・O-13）は、平石型自然石に小さく子安像を線刻し、「子安講」銘と 51 名の女性の氏名を刻んでいる。この後は、同形のまま、昭和 36 年（1961）の「秩父観音参拜記念」碑（Ⅱ・O-14）に変わり、以後平成 14 年の参拝碑まで 6 基建立されている。

昭和 32 年子安講碑は子安講終焉の記念碑でもあるが、昭和 36 年の秩父講参拝者名 16 人を見ると、うち 14 名が昭和 32 年子安塔に名を連ねており、子安講のメンバーがそのまま秩父講に移行した経緯がわかる。

石碑の形式は、男性の講である出羽三山講の参拝記念碑に著しく類似する。下総での女性の秩父参りは、男性の出羽三山の奥州参りに対応して幕末から近代にかけて流行り、その多くは子育てが一段落した女性たちの一生に一回の楽しみであったという。（注 4）

昭和 30 年代に子育てを終えた大和田の女性たちが、子安講を秩父講へと発展的に解消した講の姿は、成田街道沿いの佐倉市や、千葉市・四街道市域でも昭和期からよくみられる傾向でもある。

## （2）萱田町薬師寺の女人講に関連する石造物

萱田町薬師寺の小さな境内には、如意輪観音像塔 1 基と子安像塔 4 基の 5 基の女人講石塔が塚状の壇上に並んでいる。

右端の如意輪観音像塔（Ⅱ・K-1）は、『市史』では造立年月日銘「宝口・10・」で年不明として扱われているが、「永」の上の一部と「酉」の字が確認できることと、「宝暦」の酉年 3 年よりは像容や願文、交名の銘文の形式が古いことから、本調査では「宝永二酉天十月日」（1705）の造立とした。「萱田町妙誉」はじめ「おなつ」など女性名 15 名などが刻まれているのも、江戸前期の十九夜塔の特徴で、「宝永 2 年」の造立年は、大和田・萱田町の十九夜塔では最古、八千代市内でも十番内に入り、萱田町の女人講が大和田と同様に江戸前期には成立していたことがうかがえる。

薬師寺の江戸前期の石造物はこの十九夜塔だけで、中期のものは残っておらず、後期に入ってから文政 7 年（1824）銘の子安塔（Ⅱ・K-2）や弘化 5 年（1848）銘の子安女人講奉納の手洗石（Ⅱ・K-3）などがみられる。近代は、明治 16 年（1883）・大正 10 年（1921）・昭和 51 年（1976）の各子安塔 3 基（Ⅱ・K-4～6）が並ぶ。

文政と明治の子安塔は、崩壊が進み、台石の銘文は下部が読めない部分もあるが、江戸後期以降の女人講石塔には、全てに女人講の女性名が（近代以降は氏名）が入っている。また同時に「世話人」の家名（男性名）も記されていて、女人講石塔の建立は、女

人講単独ではなく、檀家とムラの主だった家の総意と援助で行われていたと思われる。

### (3) 萱田町長妙寺の女人講に関連する石造物

萱田町の日蓮宗の長妙寺には、「子安鬼子母神」像の子安塔が、幕末の嘉永2年(1849)に「女人講中」銘で(Ⅱ-K-7)、戦後の昭和39年(1964)には、「子安講中」銘で(Ⅱ-K-10)、造立されている。

子等を食らう訶梨帝母がその愛児を釈迦に隠されて、子を失う悲しみを知って改心し、安産子育てを誓ったという説話と、さらに日蓮が「鬼子母神」を、法華経を護持する「十羅刹女の母」として重視したことから、日蓮宗では「子安鬼子母神」を安産子育ての神として信仰してきた。その像は、胸に赤子を抱き、右手に吉祥果の柘榴を持つ姿であらわされ、近隣では、船橋市前貝塚町行伝寺に「知其初懐妊成就 不成就安楽産福子」銘のある文久2年(1861)造立の子安鬼子母神像塔がある。

萱田町は夫婦が宗派を異にする半檀家(カタボッケ)の家も多く、十年位前まで続けられていたという萱田町の子安講の実態は、真言宗系檀家のムラの女人講や子安講と変わらなかったと思われ、明治16年(1883)の造塔(Ⅱ-K-9)では、未敷蓮華を持つ子安観音像を「大和田村/萱田町/女人講」銘で建立している。

長妙寺の女人講関連石造物の中でも史料として重要なのは、「願主 女人講中」で奉納された手洗石(Ⅱ-K-8)である。現在は本堂の左手前にある「守護神堂」の裏に置かれていて、平成3年に守護神堂として建て替えられる以前に七面天女を祀っていた旧「七面堂」への奉養物だったかと思われる。

左面と裏面には、女人講の女性32人が、「青木市良左エ門 妻」など苗字付の家名(男性名)に「妻」・「母」・「隠居」を加えて列記され、「金壹分」など寄付額も記されている。そのほか、萱田町の家名のみ寄付者2名と世話人5名の計39名に加えて、萱田・下市場・大和田新田の寄付者17人(うち「母」1人、他は家名)の名があり、幕末のこの地域の主だった家名が苗字付でわかる。(裏面上段左の「萱田町」は、「萱田」の誤刻か?)

## 3. 出羽三山塔

江戸時代、日蓮宗地域を除く千葉県北部西部では、湯殿山・月山・羽黒山の出羽三山信仰が盛んで、「奥州参り」と称して三山登拝を果たした「行人」は「神となることを約束された者」としてその葬儀も丁重に行われ、また湯殿山の主尊の大日如来を供養する毎月の講(「八日講」など)、ボンテン塚でのテントウネンブツやボンテン立て、供養塔造立なども、ムラを上げての宗教行事であった。(注5.6)

明治維新後、神仏分離で神道祭祀に変ると、湯殿山より月山・羽黒山への尊崇が増し、また鉄道など交通網の発達によって男子は一生のうち一度は三山巡拝するという人生儀礼が一般化し、出羽三山塔も、江戸時代の湯殿山等三山供養塔から、近現代の出羽三山

参拝記念碑へとその性格と形式が大きく変化した。

これらの石造物は、現在、大和田の円光院にと萱田町薬師寺にそれぞれに、ボンテン塚としての基壇を設けて、江戸時代の供養塔と近現代の三山巡拝記念碑がともに並べて建てられている。なお、大和田・萱田町ともに三山参拝はおおむね7月の中下旬に行われ、その年の11月か12月（まれに翌年2月か3月）に造塔している。（表3-1～3）

### （1）江戸時代の出羽三山塔

萱田町の薬師寺の本堂左裏の近年に整備されたボンテン塚の中央には、文化7年（1810）造立銘の出羽三山供養塔（Ⅲ-K-1）がある。台石の上に竿石と台座を置き、その上に丸彫りの金剛界大日如来坐像があり、竿石には中央高くに「湯殿山」右に「月山」左に「羽黒山」銘、左面に「三山講中 願主」と2人、台石には7名の名を刻む。

同様な形の供養塔は、大和田の円光院の南側墓地入口西側のボンテン塚に文久2年（1862）銘の供養塔（Ⅲ-O-3）があり、世話人5人ほか21人の氏名（苗字+家名）が刻まれている。

双方とも、丸彫りの大日如来坐像の出羽三山塔として、江戸後期の重要な石塔であり、類似の形の石塔では、八千代市吉橋花輪の寛政6年（1794）の石塔がこの2塔に先行する。（注7）

さらに、円光院のボンテン塚には、より古い石塔2基ある。明和4年（1767）「奉造立講中二十四人」銘塔（Ⅲ-O-1）と、台石に願主など18人の連名がある天明6年（1786）銘塔（Ⅲ-O-2）で、どちらも光背型の金剛界大日如来坐像塔である。ボンテン塚に設置され、「講中」や複数人の連名銘があることから、2基とも湯殿山信仰を中心とする出羽三山塔であり、この地域の出羽三山信仰は、江戸中期に遡るといえよう。

表3-1 江戸時代の出羽三山供養塔

No.	市史 No.	所在地	造立年月日	西暦	像容	形状	写真
Ⅲ-O-1	五-15	大和田 円光院	明和4・10	1767	大日如来	光背型	
銘文							
奉造立講中二十四人 （日） （金剛界大日如来像） （月） 明和四丁亥十月日							



Ⅲ -0-3	七-1 -20	大和田 円光院	文久 2・11・吉	1862	大日如来	丸彫型	
台石右面		上部			竿石右面		
人話世		像			文久二戌十一月吉日		
大澤治兵エ 大澤庄五郎 花澤新兵エ 高橋惣十郎 大澤小十郎		(金剛界大 日如来坐					
		竿石正面					
		羽黒山 湯殿山 月山					
台石正面							
大澤籐右エ門 小澤長左エ門 小澤治左エ門 花澤与左エ門 花澤権兵エ 齊藤長兵エ 大澤平六 川城三十郎 高橋伊右エ門 御山新左エ門 御山新四郎 高橋治左エ門 新谷勘右エ門 御山伊三郎 寺澤太兵エ 大澤浅右エ門 大澤庄左エ門 川口弥右エ門 齊藤庄八 新谷總左エ門 高橋園右エ門							

## (2) 近現代の大和田の出羽三山塔

大和田円光院ボンテン塚には、江戸時代の大日如来像塔3基のほか、明治7年(1874)銘出羽三山塔(Ⅲ-O-4)から平成25年(2013)参拝銘の出羽三山塔(Ⅲ-O-19)が15基、明治32年(1899)銘の手洗石(Ⅲ-O-6)があり、現在に至るまで出羽三山信仰が続いている。

明治7年銘塔では「湯殿山」銘が中央であるが、出羽三山では、明治期の廃仏毀釈の後、羽黒山が「出羽神社」となって3社の神を併せ祀る三神合祭殿が設けられるなど参拝の拠点になり、また、近代社格制度で月山神社が官幣大社に、出羽神社と湯殿山神社が国幣小社に列せられたことなどにより、明治18年(1885)銘塔(Ⅲ-O-5)からは「月山」が中央に、右に「湯殿山」左に「羽黒山」となる。

さらに、大正12年(1923)銘の出羽三山塔(Ⅲ-O-8)からは登拝した年月日と登拝者名を記す「参拝記念碑」となり、昭和24年(1949)銘塔(Ⅲ-O-10)からは、建立年月日が省略され、さらに「月山」の右に「羽黒山」、左に「湯殿山」へと銘が入れ替わり、昭和26年(1951)塔(Ⅲ-O-11)のように、三山名に「大神」の尊称が付くこともある。

戦後の大和田の出羽三山参拝は、昭和24年から2~10年おきに7回行われ、昭和61年(1986)から平成25年までの3回は、同行者で「月湯羽会」などそれぞれ会をつくって実施されている。

表 3-2 大和田の近代・現代の出羽三山塔

No.	市史No.	造立年月日	西暦	所在地	種類・形状	銘文（造立年月日は省略）
Ⅲ-0-4	七-1-24	明治 7・12・吉	1874	大和田 円光院	出羽三山塔 自然石	（月）羽黒山 湯殿山 （日）月山
<p>高橋惣十郎 大澤庄五郎 大澤長左工門 御山新四郎 近江屋富五郎 大澤治兵工 大澤庄左工門 花澤権兵工 川城三左工門隠居 高橋治右工門 新谷勘右工門 新谷惣三工門 高橋又五郎 花澤新助 御山新三工門 花鳥太兵工 榎山奥蔵 齋藤平吉 御山金兵工 大塚金五郎 川城三十郎 新谷惣左工門 高橋治良右工門 世八人 大澤平六 大澤石蔵 御山伊三郎</p>						
Ⅲ-0-5	七-1-32	明治 18・11	1885	大和田 円光院	出羽三山塔 自然石	羽黒山 月山 湯殿山 中社
<p>大和田驛 世 小澤亀吉 川城索太郎 御山今助 新谷新蔵 新谷新蔵 高橋富蔵 齋藤助蔵 花鳥太四郎 福島豊橋 花鳥大次郎 川城茂七 齋藤富蔵 高橋吉郎兵衛 御山利助 大澤藤蔵 大塚亀太郎 齋藤庄八 花澤仙蔵 新谷宗太郎 齋藤徳次郎 大澤千代松 大澤石太郎 川口仲次郎 新谷宗蔵 人話 世</p>						
Ⅲ-0-6	九-3-39	明治 32・12・吉	1899	大和田 円光院	手洗石	納 奉
<p>齋藤徳次郎 大塚亀太郎 花澤代治郎 大澤藤蔵 大澤代松 川城茂七 新谷惣太郎 齋藤富造 三山利助 旧世話人 川城索太郎 高橋富蔵 花鳥太四郎 三山今助 新谷弥平次 旧講社 高橋吉郎兵工 花澤勘治郎 川口弥右工門 花澤作太郎 特別寄附者 金五十銭 花澤治郎 金三十銭 小澤治郎右工門 金三十銭 小澤長左工門 人話世 小澤亀吉 新谷斧八 齋藤助蔵 齋藤全八 福島豊橋 大澤石太郎 サギ沼 石工音五郎</p>						

No.	市史No.	造立年月日	西暦	所在地	種類・形状	銘文（建立年月日は省略）
Ⅲ-0-7	七-1 -49	大正 3・2	1914	大和田 円光院	出羽三山塔 自然石	月山 湯殿山 羽黒山
						中 社
<p>寄附者 金老円御山勝五郎</p> <p>大沢莊藏 小沢徳太郎 高橋喜惣治 花沢元治郎 ○賀芳藏 新谷安藏 ○沢兼吉 ○沢○治郎 全 長之助 全 徳治郎 全 定五郎 御山菊治郎 川城文治郎</p> <p>新谷寅藏 高橋治助 沢田國松 榎山浦吉 齋藤吉治郎 石井吉藏 新○米吉 大沢米藏 齋藤共助 花沢仙藏 新谷清次郎 大沢莊三郎 高橋重太郎 花沢道太郎 沢田長之助 ○沢太惣治 鈴木米藏 中臺松五郎</p> <p>人 話 世</p>						

Ⅲ-0-8	七-1 -61	大正 12・3	1923	大和田 円光院	出羽三山塔 自然石	<p>大正十年七月十八日 登山 川城安太郎 二代目／茂助／芳藏 昭和廿年</p> <p>（月）湯殿山 （月）羽黒山 月山</p>
-------	------------	---------	------	------------	--------------	--

No.	市史No.	造立年月日	西暦	所在地	種類・形状	銘文
Ⅲ-0-9	七-1 -75	昭和 14・12・吉	1939	大和田 円光院	出羽三山塔 自然石	（月）湯殿山大神 月山大神 （月）羽黒山大神
						<p>昭和十四年 七月二十一日 参拝記念</p> <p>大澤久藏 花澤太惣治 高橋治助 大澤儀太郎 中臺慶三郎 新谷勝藏 澤田清吉 御山丘藏 高橋傳治郎 榎山安五郎</p>

Ⅲ-0 -10	七-1 -89	昭和 24・7・吉 (登山日か?)	1949	大和田 円光院	出羽三山塔 自然石	<p>（月）湯殿山 月山 （月）羽黒山</p>
念記拝参						
<p>花澤清作 川城芳藏 澤田春吉 大澤紋藏 齋藤利作 福嶋勝治 小澤仁助 川城茂助 齋藤寅之助 齋藤千松 同行十名</p>						

No.	市史No.	造立年月日	西暦	所在地	種類・形状	銘文	
Ⅲ-0-11	七-1-93	昭和 26・12・10	1951	大和田 円光院	出羽三山塔 自然石	(月) 湯殿山大神 月山大神 (巳) 羽黒山大神	昭和二十六年七月二十一日 出羽三山参拝記念
高橋貞吉 大沢篤次郎		大澤庄太郎 齊藤 傳	大沢正二 御山政吉	齊藤市太郎	花沢仁助	花島新一 齊藤多一	新谷要藏 新谷定吉 大塚三之助 高橋庄松

Ⅲ-0-12	七-1-104	昭和 32・11・8	1957	大和田 円光院	出羽三山塔 自然石	(月) 羽黒山 月山 (巳) 湯殿山	昭和三十二年七月十八日 参拝記念 (年齢順) 大澤留吉 大澤正一 高橋利助 福島隆盛 高橋定吉 榎山新治 清水徳松 川城秀雄 花澤政治 小澤治一 石井 實 花澤寛一 川城 良 大澤石松 小澤利雄 榎山 清 大澤庄治 川城武夫 中台 壽
--------	---------	------------	------	------------	--------------	--------------------------	--

Ⅲ-0-13	七-1-116	昭和 36・9・5	1961	大和田 円光院	出羽三山塔 自然石	(山印) 月山 湯殿山 羽黒山	昭和三十六年七月十五日参拝記念 先達 大澤善一 世話人 御山清正 世話人 花澤徳太郎 世話人 大澤作太郎 御山信三郎 新治文治郎 川城孝行 大井義雄 御山 操 大澤正一 芹川西夫 三森竹雄 齋藤元治郎 澤田長三 花澤俊一郎 新谷孝一 中台四郎 大塚元治
--------	---------	-----------	------	------------	--------------	-----------------------	--

No.	市史No.	造立年月日	西暦	所在地	種類・形状	銘文	
Ⅲ-0-14	七-1-136	昭和 44・10・3	1969	大和田 円光院	出羽三山塔 自然石	(目) 湯殿山 月山 (月) 羽黒山	昭和四十四年七月十六日 参拝記念
青木阿具太郎 大澤 繁 大澤正得 大澤治一 小澤邦雄 小澤孝夫 檜山徳寿 河野政司 斉藤茂昇 斉藤吉治 斉藤利春 新谷安治 新谷吉治 新谷義男 新谷貫一 高橋蒼富 高橋竹治 高橋八郎 高橋竹松 高橋 伝 花島利二 花島泰治 花澤珍信 花澤英男 福島愛義 福島浦治 御山正治 三浦忠義 あいうえお順							

Ⅲ-0-15	七-1-142	昭和 46・9・吉	1971	大和田 円光院	出羽三山塔 平石	(目) 湯殿山 月山 (月) 羽黒山	昭和四十六年七月十八日 参拝記念
川城 建 小澤長寿 齊藤徳太郎 澤田 明 知留間正次 川城建一 年令順							

Ⅲ-0-16	七-1-154	昭和 51・11・吉	1976	大和田 円光院	出羽三山塔 自然石	(目) 湯殿山 月山 (月) 羽黒山	昭和五十一年七月十七日 参拝記念
大澤正治 大澤 明 大澤幸雄 大澤正雄 大澤 稔 大澤好一 大塚 哲 檜山孝吉 川城武夫 川城茂利 川城隆夫 川城進一 川城健一 川城健司 斉藤健幹 斉藤敏昭 澤田勝美 新谷喜一 新谷義雄 高橋義雄 知留間正実 中台 聡 花澤元春 花澤富幸 花澤俊一 牧野 宏 御山 治 御山 俊 御山 新一 大澤利行 河島武久 鈴木政次 鈴島九郎 花島保五郎 御山 芳和 渡辺 豊							

No.	市史No.	造立年月日	西暦	所在地	種類・形状	銘文	
III-0-17	七-1-164	昭和 61・10・吉	1986	大和田 円光院	出羽三山塔 平石	(目) 羽黒山 月山 (月) 湯殿山	
月湯羽会 会長大澤尚孝		第一 澤田誠一郎 花島貞好 青木重雄 齊藤義光 福島 睦 榎山道夫 福島和利 川城茂夫			杉山晴康 小澤敏光 平山雅彦 御山正二 高橋通浩 川城幸男 齊藤 茂 御山三男 大澤尚孝 大澤和也 川城久之 小島 一 大澤 勉 鈴木貞三郎	昭和六十一年七月十一・十二・十三日 参拝記念	
		第二 花島 哲			高橋 徹		花島 哲
		第三 大澤尚孝 大澤和也 川城久之 小島 一 大澤 勉 鈴木貞三郎			御山三男 齊藤 茂 御山三男 大澤尚孝 大澤和也 川城久之 小島 一 大澤 勉 鈴木貞三郎		高橋 徹
		第四 石井正雄 花澤正夫 川城正道 新谷 豊 齊藤 薫 及川 繁 勝田台 大澤正治 萱田町 澤田政道 新谷 等 齊藤正一 代参 石井孝治 福島 昇			石井正雄 花澤正夫 川城正道 新谷 豊 齊藤 薫 及川 繁		

No.	市史No.	造立年月日	西暦	所在地	種類・形状	銘文
III-0-18	なし	平成 16・11・吉	2004	大和田 円光院	出羽三山塔 平石	(目) 湯殿山 月山 (月) 羽黒山
大昇会 会長 新谷勝美 施工 有限会社 河上石材工業		第一 新谷俊一 御山俊一 大澤正幸 大澤秀雄 榎山孝一 澤田憲徳 小澤俊昌 花澤誠 花澤義信 花澤徳幸 花澤進 川城直紀 新谷耕治 大澤篤士 花澤裕治 鈴木正幸 新谷勝美			新谷俊一 御山俊一 大澤正幸 大澤秀雄 榎山孝一 澤田憲徳 小澤俊昌 花澤誠 花澤義信 花澤徳幸 花澤進 川城直紀 新谷耕治 大澤篤士 花澤裕治 鈴木正幸 新谷勝美	平成十六年七月二十一・二十四・二十五日 参拝記念
		第二 御山俊一 大澤正幸 大澤秀雄 榎山孝一 澤田憲徳 小澤俊昌 花澤誠 花澤義信 花澤徳幸 花澤進 川城直紀 新谷耕治 大澤篤士 花澤裕治 鈴木正幸 新谷勝美			御山俊一 大澤正幸 大澤秀雄 榎山孝一 澤田憲徳 小澤俊昌 花澤誠 花澤義信 花澤徳幸 花澤進 川城直紀 新谷耕治 大澤篤士 花澤裕治 鈴木正幸 新谷勝美	

No.	市史No.	造立年月日	西暦	所在地	種類・形状	銘文（造立年月日略）
III-0-19	なし	平成 25・11・吉	2013	大和田 円光院	出羽三山塔 平石	(月) 羽黒山 月山 (目) 湯殿山
<p style="text-align: right;">平成二十五年七月十九・二十・二十一日 参拝記念</p> <p style="text-align: center;">             先達 新谷勝美              役員 石井正明              第一 澤田憲徳              澤田敏男              澤田宣昭              鈴木正幸              大澤篤士              大澤利和              新谷一彦              第二 御山耕二              大澤孝典              大澤秀明              大澤浩一              第三 高橋謙              齊藤貴              第四 杉山晴彦              杉山正明              安田晃太              安田祐也              笠川輝美              周郷優              大神会           </p>						

表 3-3 萱田町の近代・現代の出羽三山塔

No.	市史No.	造立年月日	西暦	所在地	種類・形状	銘文
III-K-2	七-1-37	明治 25・4・8	1892	萱田町 薬師寺	出羽三山塔 自然石	(月) 羽黒山 月山 (目) 湯殿山
<p style="text-align: center;">             千葉郡萱田町              青木重兵衛              中台庄造              全 仁助              全 藤兵衛              全 金造              全 武右工門              全 兵助              藤代与惣治              大沢柔吉              中台庄五郎              岩井長造              中台半三郎              藤代市良右工門              杉山字之助              高橋園右工門           </p>						

III-K-3	七-1-60	(大正 10 参拜)	1921	萱田町 薬師寺	出羽三山塔 自然石	(月) 湯殿山神社 月山神社 (目) 羽黒山神社
<p style="text-align: center;">             三山同行              中臺藤太郎              杉山勘藏              藤代勝太郎              飯沼安五郎              岩井信吉              藤代由藏              青木為吉              中臺金藏              中臺武右工門              青木喜五郎              大正十年七月登山              ケミ川 楢本              石忠           </p>						

No.	市史No.	造立年月日	西暦	所在地	種類・形状	銘文
III-K-4	七-1 -64	(大正 12 参拜)	1923	萱田町 薬師寺	出羽三山塔 自然石	(月) 湯殿山神社 月山神社 (巳) 羽黒山神社
ケミ川 ハシ本 石忠			大正十二年 七月廿二日 登山 大澤藤五郎 杉山安之丞 同行			

No.	市史No.	造立年月日	西暦	所在地	種類・形状	銘文
III-K-5	七-1 -67	昭和 9・12・吉	1934	萱田町 薬師寺	出羽三山塔 自然石	(月) 湯殿山神社 月山神社 (巳) 羽黒山神社
昭和九年十二月吉日建之 大和田小學校長 小野徳次郎 選			昭 and 九年七月二十日此ノ日コソ吾等同行十七名奥州三山参拝團 出發ノ日ナリ世相ヤ、モスレバ唯物觀ニ立チ我國古來ノ敬神崇 祖ノ傳統的精神ヲ輕視スル風生ジタルガ如シ然レドモ帝國ノ國 威隆々トシテ國際間ニ重キヲナスハ神道宗教ヨリ享ケタル牢固 ノ國民的信念ニ負フ所大ナルモノアリト信ズコレ町内有志コノ 舉ニ出テシ所以ナリ路ヲ成田土浦ニトリ常州廣野ニ兀立セル筑 波ノ景勝ヲ探リ或ハ勤王ノ發祥地トモ言フベキ水戸ノ遺風ヲ欽 仰シ大洗ニ洋々ノ水モテ身ヲ浄メ青葉ノ城ヲ追憶シ俳星ノ辞ナ カリシ松ノ翠島ヲ遊覽二十三日三山下大仙坊ニ入り翌二十四日 早朝出發三山ヲ参拝修行ノ尊キ體驗ヲ得タリ二十六日善光寺坊 入翌日本縣ノ偉人日蓮宗祖ノ開キ給ヒ身延山久遠寺ニ参拝二 十八日關東唯一ノ御陵多摩御陵ニ皇國ノ隆昌加護ヲ祈願シ午後 六時一同無恙歸町此ノ行程九日ナリ記して記念トス			
同行参拝者 杉山安孝 青木重平 大澤元治 島田躋壽 中臺嶽松 青木茂			藤代市之助 花島勝次郎 中臺湊 全 元治 全 茂七 全 藤次郎 青木幸助 杉山健治 田久保せん 青木菊次郎 大澤小源治			

No.	市史No.	造立年月日	西曆	所在地	種類・形状	銘文																										
Ⅲ-K-6	七-1-102	(昭和32参拝)	1957	萱田町 薬師寺	出羽三山塔 自然石	(月) 湯殿山大神 月山大神 (目) 羽黒山大神																										
船橋市宮坂 石岩 刻		昭和二年七月十五日参拝																														
		<p style="text-align: right;">世話人</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 10%;">中台源一</td> <td style="width: 10%;">青木富之助</td> <td style="width: 10%;">青木安五郎</td> <td style="width: 10%;">岩井精五郎</td> <td style="width: 10%;">世話人</td> </tr> <tr> <td>六十才</td> <td>七十才</td> <td>七十一才</td> <td>五十九才</td> <td></td> </tr> </table> <table style="width: 100%; border: none; margin-top: 10px;"> <tr> <td style="width: 10%;">年令順ニヨル</td> <td style="width: 10%;">中台國嘉</td> <td style="width: 10%;">川島清</td> <td style="width: 10%;">岩井喜一郎</td> <td style="width: 10%;">藤代保</td> <td style="width: 10%;">藤代清</td> <td style="width: 10%;">杉山綱五郎</td> <td style="width: 10%;">藤代仁三郎</td> <td style="width: 10%;">杉山綱五郎</td> </tr> <tr> <td></td> <td>四十九才</td> <td>四十九才</td> <td>四十九才</td> <td>五十四才</td> <td>五十七才</td> <td>五十八才</td> <td>五十九才</td> <td>五十八才</td> </tr> </table>					中台源一	青木富之助	青木安五郎	岩井精五郎	世話人	六十才	七十才	七十一才	五十九才		年令順ニヨル	中台國嘉	川島清	岩井喜一郎	藤代保	藤代清	杉山綱五郎	藤代仁三郎	杉山綱五郎		四十九才	四十九才	四十九才	五十四才	五十七才	五十八才
中台源一	青木富之助	青木安五郎	岩井精五郎	世話人																												
六十才	七十才	七十一才	五十九才																													
年令順ニヨル	中台國嘉	川島清	岩井喜一郎	藤代保	藤代清	杉山綱五郎	藤代仁三郎	杉山綱五郎																								
	四十九才	四十九才	四十九才	五十四才	五十七才	五十八才	五十九才	五十八才																								

Ⅲ-K-7	七-1-128	(昭和41参拝)	1966	萱田町 薬師寺	出羽三山塔 自然石	(月) 湯殿山大神 月山大神 (目) 羽黒山大神 参拝記念										
昭和四拾壹年七月貳拾貳日																
<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 10%;">岩井重雄</td> <td style="width: 10%;">中台忠之</td> <td style="width: 10%;">花島中次</td> <td style="width: 10%;">中台平次郎</td> <td style="width: 10%;">川城光次</td> <td style="width: 10%;">杉山善之助</td> <td style="width: 10%;">皆川竹松</td> <td style="width: 10%;">藤代清</td> <td style="width: 10%;">杉山綱五郎</td> <td style="width: 10%;">杉山安衛</td> </tr> </table>							岩井重雄	中台忠之	花島中次	中台平次郎	川城光次	杉山善之助	皆川竹松	藤代清	杉山綱五郎	杉山安衛
岩井重雄	中台忠之	花島中次	中台平次郎	川城光次	杉山善之助	皆川竹松	藤代清	杉山綱五郎	杉山安衛							

No.	市史No.	造立年月日	西暦	所在地	種類・形状	銘文
Ⅲ-K-8	七-1 -161	(昭和55参拝)	1980	萱田町 薬師寺	出羽三山塔 自然石	(月) 湯殿山大神 月山大神 (目) 羽黒山大神 参拝記念
昭和五十五年七月十四日						
サギ沼 廣瀬石材店 中臺光雄 中臺仲之助 川城 達 河野吉衛 大塚理季嗣 大澤國五郎 中臺 保 岩井喜政 藤代 守 岩井栄三郎 中臺邦雄 青木 幹 中臺庄之助 三山同行						

Ⅲ-K-9	なし	(平成6参拝)	1994	萱田町 薬師寺	出羽三山塔 平石	(月) 湯殿山大神 月山大神 (目) 羽黒山大神 参拝記念
平成六年七月十七日						
会計 藤代清市 杉山 馨 杉山 清 川島正次郎 杉山正道 森田 正 中臺光一 中臺保美 中臺 昭 青木重之 杉山泰一 藤代清文 三山同行						

### (3) 近現代の萱田町の出羽三山塔

萱田町では、明治25年(1892)造立銘塔(Ⅲ-K-2)から平成6年(1994)参拝銘塔(Ⅲ-K-9)まで8基の近現代の出羽三山塔が建立されている。大正10年(1921)「登山」銘(Ⅲ-K-3)からは、大和田と同様に建立年月日に替わって「登山」や「参拝」の年月日と同行者名を記す参拝記念碑となり、三山名も「大神」や「神社」が付される。

これらの中で、昭和9年(1934)の参拝記念碑(Ⅲ-K-5)には、長文で参拝日程と立ち寄り先が記されていて、当時の世相と旅行の行程をよく伝えている。大和田小学校校長に撰文を依頼したこの出羽三山参拝記録は、前半数行は、満州事変後の世相を反映した皇国史観の勇ましい文章であるが、読み進むと、総勢17人で7月20日に立、成田・

土浦を經由して筑波山・水戸を探勝、大洗で「禊」（海水浴？）し、仙台青葉城から芭蕉の句ゆかりの松島を遊覧、23 日に出羽三山下の宿坊「大仙坊」に宿泊し、24 日に三山を参拝、帰りには、26 日に善光寺の宿坊に入って、さらに山梨県の身延山と多摩御陵に寄るといふ 9 日間の旅をしていたことがわかる。帰路、「千葉県の偉人の日蓮宗祖開山」の日蓮宗総本山身延山久遠寺に寄っているのは、萱田町には真言宗薬師寺のほか日蓮宗長妙寺と二つの菩提寺があり、「半檀家」も多い萱田町の事情によるであろう。

出羽三山では麓の宿坊「大仙坊」に泊まっているが、大和田をはじめ上高野・下高野の講の宿坊は「宮田坊」、高津・吉橋は「西蔵坊」に決まっている（注 8）とのこと。筆者の調査でも大和田新田上区は宮田坊、大和田新田下区は西蔵坊であり（注 6）、大仙坊は萱田町のこの碑文で初めて知る宿坊名であった。

#### 4. 馬頭観音供養塔

馬頭観音は、「六観音」変化身のうち唯一憤怒相で、諸悪を排する観音菩薩として信仰されたが、馬頭という名称と頭に馬頭を持つ像容から、江戸期から近代には、馬の守護や供養のため、数多く造立された。

大和田では円光院に庚申塔群と一緒に 5 基の馬頭観音塔がある。そのうち天明 3 年（1783）銘塔（IV-O-1）には、一面二臂で印を結ぶ馬頭観音の浮彫り坐像があり、その表情は穏やかながら、凜として引き締まっている。

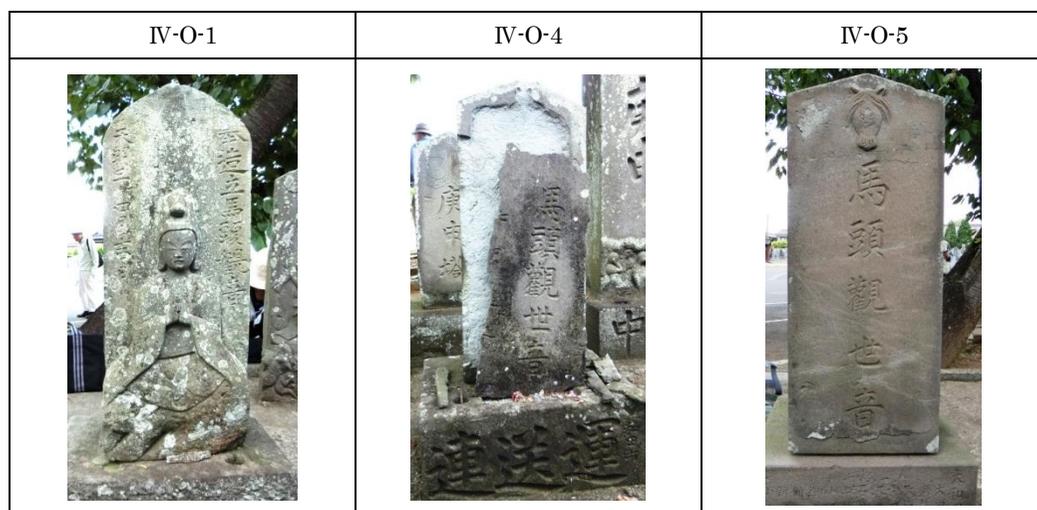
近代になっても、旧宿場としての大和田・萱田町は、大正時代まで荷馬車など馬の使用はより盛んで、明治 29 年（1896）（IV-O-4）には「大和田町 運送連」が、大正 6 年（1917）（IV-O-5）には大和田上区と下区の 21 人により「馬頭観世音」塔が建てられている。その他の 3 基は個人の造立であろう。（表-4）

さらに、昭和初期から馬の飼育に替わって酪農が盛んになると、馬頭観音塔の代わりに「獣魂供養碑」や「牛霊供養塔」が、また最近はペットを対象の「畜霊塔」も建てられていて、時代と世相を反映して供養される動物も変わっていくようである。

表 4 大和田・萱田町の馬頭観音塔

No.	市史 No.	所在地	造立年月日	西暦	像容	形状	銘文 (造立年月日略)
IV-0-1	六-22	大和田 円光院	天明 3・ 4・吉	1783	馬頭観音	光背 型	奉造立馬頭観音
IV-0-2	六-85	大和田 円光院	安政 3・ 11・吉	1856	(馬頭)	駒型	馬頭観世音
IV-0-3	六-124	大和田 円光院	明治 26・ 4・1	1893		駒型	(梵字サ) 馬頭観世音 大和田町 青木幸藏

No.	市史 No.	所在地	造立 年月日	西暦	像容	形状	銘文 (造立年月日略)
IV-O-4	六- 129	大和田 円光院	明治 29・ 7	1896	(馬頭)	駒型	馬頭観世音 大和田町 運送連
IV-O-5	六- 198	大和田 円光院	大正 6・ 1・吉	1917	(馬頭)	駒型	馬頭観世音 世話人 川城茂右エ門/川城三十 良 大和田上区 大沢庄左エ門/齋藤 吉治郎/大沢惣七/小沢定七郎/沢 田長之助/石井吉造/中台三次/小 澤仁助/御山菊次郎/新谷安藏 新谷清一/小沢石松 全下区 中台藤兵エ/青木市良平/ 岩井四良左エ門/中台武右エ門/ 大沢藤右エ門/青木新左エ門/青 木隆
IV-K-6	六- 246	萱田町 長妙寺	昭和 11・ 4・吉	1936	(馬頭)	駒型	馬頭観世音 願主川城量平



### おわりに

今回、石造物 79 基を調査した結果、以下のようなことがわかった。

大和田・萱田町では、元禄・宝永期の 1700 年前後に庚申塔を、女性は十九夜塔を造塔しており、男・女ともに当時からムラヅキアイが盛んであった。近代もムラの講は活発で、萱田町の大正 5 年庚申塔には、庚申塔群の敷地を確保した経緯が記されている。

江戸前期の石塔は女人講の石塔も含め、主尊への結縁を重んじ交名として各個人の名を列記する傾向があるが、元文のころからは「講中」や「同行〇人」など省略された表

記になる。後期からは世話人名が記され、幕末から近現代にかけてはまた人名列記が多くなる。なかでも薬師寺の万延元年の女人講奉納の手洗石には、家名に妻・母を付けた女性 34 人を含む 56 人の名が列記されてあって、史料としての価値も高い。

出羽三山塔は、江戸時代の湯殿山本尊の大日如来供養塔から、近代に出羽三山参拝記念碑へと変わり、現代にいたる。中でも萱田町の昭和 9 年塔は、三山巡拝の行程がわかる記念碑であった。

女人講の石塔は、十九夜塔から江戸後期に子安像塔へ変化して現代にいたるが、萱田町長妙寺の子安塔は日蓮宗系の「子安鬼子母神」像を刻む。大和田では昭和 30 年代に子安講が秩父講となり、石塔も出羽三山碑に類似した秩父参拝記念碑へと内容・形態も変化するなど、興味深い調査結果であった。

最後に、13 回の現地調査に参加し、難解な銘文の判読などにご努力いただいた 9 名の会員と、万延元年女人講奉納手洗石の銘文解説資料を提供くださった佐久間弘文氏に謝意を表します。

注

1. 「石造文化財」『八千代市の歴史 資料編 近代・現代Ⅲ 石造文化財』八千代市史編さん委員会 2006 年
2. 「八千代市域道標調査表 No.B04」『ふるさと発見 八千代の道しるべ』八千代市郷土歴史研究会 2001 年
3. 蕨由美「北総の子安像塔の系譜＝江戸時代中期におけるその出現と成立について」『房総の石仏』第 20 号 房総石造文化財研究会 2010 年
4. 石田年子「林立する女達の秩父巡拝塔」『日本の石仏』No.156 日本石仏協会 2015 年
5. 小川奉巳「大和田の天道念仏」・「萱田町の天道念仏」『よなもと今昔』12 号 阿蘇郷土研究サークル 1996 年
6. 蕨由美「民俗行事にみる旧村の伝統と新しい街・大和田新田の姿」『史談八千代』32 号八千代市郷土歴史研究会 2007 年
7. 蕨由美「吉橋の出羽三山の石造物」『史談八千代』40 号 八千代市郷土歴史研究会 2015 年
8. 「第六章第二節 奥州講」『八千代市の歴史 資料編 民俗』八千代市史編さん委員会 1993 年